

<用語解説>

●エネルギー管理システム (EMS) :

エネルギー消費量のモニタリングや省エネ行動を喚起するための見える化、空調・照明などの省エネ制御、分散型電源の制御など、節電・省エネに関する機能を持ったシステムの総称です。

一般的に EMS (Energy Management System) と呼ばれ、ビル向けの BEMS (Building Energy Management System)、工場向けの FEMS (Factory Energy Management System)、水処理向けの WEMS (Water Energy Management System)、家庭向けの HEMS (Home Energy Management System) などに分類されます。

●SPSS :

Smart Power Supply Systems の略です。当社の中核製品である受変電設備や、長年培った系統連系技術を駆使し、多様な分散型電源を組み合わせることで省エネと電力の安定供給を実現するソリューションです。

●受変電設備 :

電力会社から受電した電力を変圧器により負荷設備に適した電圧に変換した上で構内に配電・供給し、あわせて事故時には影響の波及を防止する機能を備える設備のことです。

●蓄電池 :

電気を貯めておき、貯めた電気を必要なときに使うことができるものを言います。

●分散型電源 :

電力供給の一形態のことで、比較的小規模な発電装置を消費地近くに分散配置して電力の供給を行なう機械そのものや、その方式のことです。(太陽光・風力・バイオマスなど)

●コージェネレーションシステム(CGS) :

熱エネルギーを運動エネルギーなどに変換し、その排熱を利用して動力・温熱・冷熱を取り出し、総合エネルギー効率を高める、エネルギー供給システムの一つです。

●BCP :

事業継続計画 (Business Continuity Planning)。企業が災害などの緊急事態に遭遇した場合において、事業の損害を最小限にとどめつつ、事業継続あるいは早期復旧を可能とするための方法、手段などを取り決めておく計画のことです。

●従量料金 :

電気やガスなど、エネルギーの使用量に応じて計算される料金です。

電気料金の場合、1kWh あたりの電力量料金単価が決められており、使用電力量にその単価を掛けた費用が月々の電気料金の一部になります。(電力量単価×1カ月の使用電力量)

●基本料金 :

電気料金のうち、契約電力によって決まる料金です。

利用できる電力の上限は契約電力として設定され、この契約電力の大きさで決まる料金です。

●ピークカット :

電力需要のピーク (頂点) を低く抑えることです。

●余剰電力 :

発電して使用せずに余る電力のことです。

●負荷需要 :

工場などの操業にかかる電力使用量です。

●デマンド :

最大需要電力 (デマンド値) と呼ばれるもので、高圧、特別高圧で電気を受けるビル、工場などで、電気料金の基本料金の計算に使用されます。

30分間 (毎時0分~30分、30分~60分) の平均使用電力 (kW) を 30分デマンド値と呼び、1カ月の中で最大の 30分デマンド値がその月の最大需要電力になります。その月と過去 11カ月の最大需要電力の中で最も大きい値をもとに契約電力が決まります。

●エネルギー見える化 :

電気使用量やガス使用量などのエネルギーを計測するとともに、帳票やグラフなどで管理するもので、エネルギー使用状況の分析や省エネ活動を推進するためのツールとして利用されます。